

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise

モデルご使用上の留意・注意事項 / ドキュメント修正事項

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(以降 Cloud Ready Blocks Enterprise)に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

また、Cloud Ready Blocks Enterprise のマニュアルの内容に修正事項がございますので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、対象となるドキュメントをご覧になる際は、下記に示します内容をあわせてお読みくださいますようお願いいたします。

2017 年 7 月
富士通株式会社

■ ご使用上の留意・注意事項

1. コンバージドファブリックスイッチブレード(10Gbps 18/8+2)に関する留意・注意事項

(1) コンバージドファブリックスイッチブレードに関する注意事項

コンバージドファブリックスイッチブレードの状態の確認については、ServerView Fabric Manager をご使用ください。

ServerView Operations Manager および ServerView Virtual-IO Manager は状態の確認ができません。

(2) その他のコンバージドファブリックスイッチブレードに関する留意事項については、「コンバージドファブリックスイッチ製品 ご使用上の留意・注意事項」を参照ください。「コンバージドファブリックスイッチ製品 ご使用上の留意・注意事項」は以下の URL の「BX900/BX400 オプションマニュアル」の Web ページ内の「コネクションブレード」よりダウンロードしてください。(コンバージドファブリックスイッチブレードは、ファームウェア: V02.10 NY0028 以降で出荷されます)

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri_blade.html

2. コンバージドファブリックスイッチ(CFX2000R)に関する留意・注意事項

(1) VLAN-ID に関する注意事項

コンバージドファブリックネットワーク(C-FAB)の業務 LAN(vfab)では、内部の VLAN-ID が vlan 3527(tagged)固定になっております。また、お客様環境に対する接続ポート(CIR ポート)では、ヒアリングに基いた VLAN-ID に変換しております。

Cloud Ready Blocks 納品後に vfab に対して VLAN を追加する場合、原則的にはその vfab に定義していない VLAN-ID を、変換後の VLAN-ID として使用してください。

例)「vfab 1」に tag 3527, tag 3528, tag 3529 を設定しているとき、CIR ポートで変換する VLAN-ID は、上記以外を使用してください。

(2) vSphere NIC Teaming に関する留意事項

本製品の VMware vSphere は、vSphere NIC Teaming のフェイルバック機能を無効化しておりますので、有効化しないでください。また、ポートグループを追加する場合は、同様にフェイルバック機能を無効化してください。コンバインドファブリックでは、ポートがリンクアップしてから転送可能になるまで 1 分程度かかるため、装置復旧時にリンクダウン／アップが発生すると、vSphere 側はリンクアップしたポートからすぐに送信を開始しますが、CFX2000 側は転送可能状態でないため受信したパケットを破棄してしまいます。そのため、vSphere NIC Teaming のフェイルバック機能を無効化して、それを回避しております。

- (3) その他のコンバインドファブリックスイッチに関する留意事項については、「コンバインドファブリックスイッチ製品 ご使用上の留意・注意事項」を参照ください。「コンバインドファブリックスイッチ製品 ご使用上の留意・注意事項」は以下の URL の「BX900/BX400 オプションマニュアル」の Web ページ内の「コネクションブレード」よりダウンロードしてください。(コンバインドファブリックスイッチはファームウェア: V02.10 NY0028 以降で出荷されます。)

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri_blade.html

3. ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 に関する留意・注意事項

ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 の状態の確認については、ETERNUS Web GUI またはオプション製品の ETERNUS SF Storage Cruiser をご使用ください。

ServerView Operations Manager および ServerView Storage Manager は状態の確認ができません。

4. PRIMERGY BX900 S2 に関する留意事項

PRIMERGY BX900 S2 に関する留意事項については、「PRIMERGY BX900 ご使用上の留意・注意事項」を参照ください。「PRIMERGY BX900 ご使用上の留意・注意事項」は以下の URL よりダウンロードしてください。(PRIMERGY BX900 S2 はマネージメントブレードファームウェア: v5.22 以降で出荷されます。)

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/blade/products/bx900/note.html>

5. PRIMERGY RX200 S8 に関する留意事項

PRIMERGY RX200 S8 に関する留意事項については、「PRIMERGY RX200 S8 ご使用上の留意・注意事項」を参照ください。「PRIMERGY RX200 S8 ご使用上の留意・注意事項」は以下の URL よりダウンロードしてください。(PRIMERGY RX200 S8 は BIOS: 1.3.0、iRMC ファームウェア: 7.19F、オンボード LAN ファームウェア: 4.00 以降で出荷されます。)

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/manual-rx200s8-201309.html>

6. PRIMERGY BX924 S4 に関する留意事項

PRIMERGY BX924 S4 に関する留意事項については、「PRIMERGY BX924 S4 サーバブレードご使用上の留意・注意事項」を参照ください。「PRIMERGY BX924 S4 サーバブレードご使用上の留意・注意事項」は以下の URL よりダウンロードしてください。(PRIMERGY BX924 S4 は BIOS: R1.1.0、iRMC ファームウェア: 7.12F、CNA ファームウェア: 4.6.313.14 以降で出荷されます。)

7. PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレードに関する留意事項

PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレードに関する留意事項については、「PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレード ご使用上の注意」を参照ください。「PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレード ご使用上の注意」は以下の URL の「BX900/BX400 オプションマニュアル」の Web ページ内の「コネクションブレード」よりダウンロードしてください。(PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレードは、ファームウェア(Fabric OS): V7.2.1 以降で出荷されます。)

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri_blade.html

8. ServerView Fabric Manager に関する留意事項

ServerView Fabric Manager に関する留意事項については、「ServerView Fabric Manager ご使用上の留意・注意事項」を参照ください。「ServerView Fabric Manager ご使用上の留意・注意事項」は以下の URL の「BX900/BX400 オプションマニュアル」の Web ページ内の「コネクションブレード」よりダウンロードしてください。(ServerView Fabric Manager はバージョン 2.0 以降で出荷されます。)

http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri_blade.html

9. VMware vSphere 5.1 に関する留意事項

VMware vSphere 5.1 に関する留意事項については「VMware vSphere 5.1 ソフトウェア説明書 (PRIMERGY)」の「6. 制限事項」を参照ください。「VMware vSphere 5.1 ソフトウェア説明書 (PRIMERGY)」は以下の URL よりダウンロードください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/manual/>

10. ServerView Resource Orchestrator の留意事項

Cloud Ready Blocks Enterprise では PRIMERGY コンバージドファブリックスイッチブレード(10Gbps 18/8+2) (以降 コンバージドスイッチブレード) の運用性を考慮した状態で出荷しています。ただし、ServerView Resource Orchestrator (以降 ROR) では OOB に IP アドレスが設定がされていない機器は、仕様によりサーバリソースツリーに登録することができないため、以下についてはご利用いただけません。

- ① コンバージドスイッチブレードではネットワーク自動設定機能が利用できません。出荷時の設定から変更する場合は、ROR のマニュアルに従って手動で設定を実施してください。
 - LAN スwitchブレード(コンバージドスイッチブレード)の内部ポートの VLAN 設定
 - 仮想スイッチ/ポートグループの作成
- ② ネットワークビューアで一部表示されない結線がある
ネットワークビューアはサーバとスイッチの結線状態を確認するため、コンバージドスイッチブレードが登録されていないと、コンバージドスイッチブレードからサーバブレード間の結線が表示されません。

- ③ コンバージドスイッチブレードの監視ができません。
- ④ VMware を利用して L-Platform または仮想 L-Server を作成すると、メッセージ番号が 42701 の warning メッセージが出力されることがあります。このメッセージが出力されても、作成した L-Platform または仮想 L-Server は、正常に利用できます。

その他の ServerView Resource Orchestrator に関する留意事項については「ServerView Resource Orchestrator Windows メディアパック V3」DVD#1 に収録されている「readme.txt」の「7.制限事項」、「9.注意事項」、「付録 A. ソフトウェア説明書」、「付録 B. ソフトウェア説明書」を参照ください。「readme.txt」は「ServerView Resource Orchestrator Windows メディアパック V3」DVD#1 の以下のフォルダに収録されています。

¥¥DISK1¥Manual¥Ja¥readme.txt

Cloud Ready Blocks Enterprise では、vSphere HA のアドミッションコントロール機能を有効化し、ポリシーを「ホスト障害のクラスタ許容(1台)」として、任意のホストサーバが停止状態となった際に、1台までであればフェールオーバーリソースを必ず確保する設計(出荷時の状態)になっています。

ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition を導入する場合、フェールオーバーポリシーが「ホスト障害のクラスタ許容」であると、L-Server の起動に失敗することがありますので、以下の設定変更を実施ください。

- ① vSphere HA のアドミッションコントロールを無効化
- ② アドミッションコントロールポリシーを「フェイルオーバーの予備容量として予約されたクラスタリソースの割合」に変更
- ③ アドミッションコントロールポリシーを「フェイルオーバーホストの指定」に変更

詳細は、FUJITSU Software ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition V3.1.2 設計ガイド、操作ガイド インフラ管理者編 (リソース管理) をご参照ください。

11. ソフトウェアを再インストールする場合の注意事項

出荷時にインストールされている以下のソフトウェアについて、再インストールが必要な場合は、本製品に添付されている「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model Documents and Tools DVD V1.1」または、弊社 SupportDesk-Web の製品ページに公開されている修正モジュールをインストールしてください。本製品に添付されている ServerView Suite に含まれるバージョンとは異なります。

■「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model Documents and Tools DVD V1.1」に含まれるソフトウェア

対象ソフトウェア	バージョン
Java 7 update 45	1.7.0_45
ServerView Operations Manager	V6.21.05
ServerView Virtual IO Manager	V3.2.04

■弊社 SupportDesk-Web の製品ページよりダウンロードが必要なソフトウェア

対象ソフトウェア	バージョン
ServerView Infrastructure Manager V1.10	1.10.16.a

12. ログ収集に関する留意事項

本製品では、「ファイバーチャネルスイッチブレード(8 Gbps 18/8)」および「ETERNUS DX100 S3 / DX200 S3」は、以下のソフトウェアによるログ収集の対象外となります。

ログ収集を実行するソフトウェア

- 保守情報収集ツール
障害発生時にログを一括収集するために使用します。
- ServerView Infrastructure Manager によるログ収集機能
定期的にログを収集し、アーカイブするために使用します。

13. メモリ増設オプションの補足

本製品では、「ファイバーチャネルスイッチブレード(8 Gbps 18/8)」および「ETERNUS DX100 S3 / DX200 S3」は、以下のソフトウェアによるログ収集の対象外となります。

■ ドキュメント修正事項

1. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model (VMware ブレードサーバタイプ) クイックスタートガイド」への訂正事項について

システム概要

・ハードウェア構成

誤: 集約スイッチ: CFX2000 × 2台

正: 集約スイッチ: CFX2000R × 2台

2. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model (VMware ブレードサーバタイプ) 設置ガイド」への修正事項について

表 2.1 CRB Enterprise のベースモデルの主要搭載ユニット

誤: Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware 平日、DX100)

正: Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware 平日、ブレードサーバ/DX100)

誤: Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware 24H、DX100)

正: Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware 24H、ブレードサーバ/DX100)

誤: Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware 平日、DX200)

正: Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware 平日、ブレードサーバ/DX200)

誤: Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware 24H、DX200)

正: Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(VMware 24H、ブレードサーバ/DX200)

表 2.4 ベースモデルの各ユニットに標準添付される電源ケーブル

誤: ETERNUS DX80 S2 または DX90 S2

正: ETERNUS DX100 S3 または DX200 S3

表 2.5 各ユニットの最大電力

ETERNUS 増設エンクロージャ(2.5 インチ)の電力

誤: 最大 570W

正: 最大 430W

表 3.1CRB Enterprise の設置諸元

種別ベースとオプションの PRIMERGY BX900 S2 の最大重量

誤: 103.5

正: 203.6

3. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model (VMware ブレード サーバタイプ) 利用ガイド」への修正事項について

P.2 「ソフトウェアの特長」の内容を以下の文書に読み替えてください。

- 仮想化基盤であるハイパーバイザー(VMware vSphere)をプレインストール。
高可用性を実現するフェールオーバークラスター(vSphere HA)、ネットワーク経路のチーミング(vSphere NIC Teaming)、ストレージパスをマルチパスで構成。
- インフラ基盤の管理性を向上する、運用管理ソフトウェア(ServerView Suite、ETERNUS SF Storage Cruiser (*))および仮想化管理ソフトウェア(VMware vCenter Server)、各種保守ツールを標準搭載。
- オプションで、運用管理の負荷を軽減する ServerView Resource Orchestrator Express (以降 ROR-Exp と表記)、統合監視機能を有する TRIOLE クラウドミドルセット A セット(以降 A セットと表記)、TRIOLE クラウドミドルセット B セット(以降 B セットと表記)を提供。

*: ETERNUS SF Storage Cruiser はオプションとして提供。

FIS Cloud Ready Blocks Enterprise モデルではシン・プロビジョニング機能はご使用になれません。本利用ガイドの以下の内容については参照しないでください。

- P.3 「1.2 システム構築について」内の以下の文章。
「SANストレージ上には、管理用領域と業務用領域のシン・プロビジョニングプールが用意されます。」
- P.5 「シン・プロビジョニングプール(TPP)」全体
- P.5 「シン・プロビジョニングボリューム(TPV)」全体
- P.12 「仮想マシンの仕様」全体

P.10 表 1.2 ハードウェアの設定情報「ストレージ」は以下の表に読み替えてください。

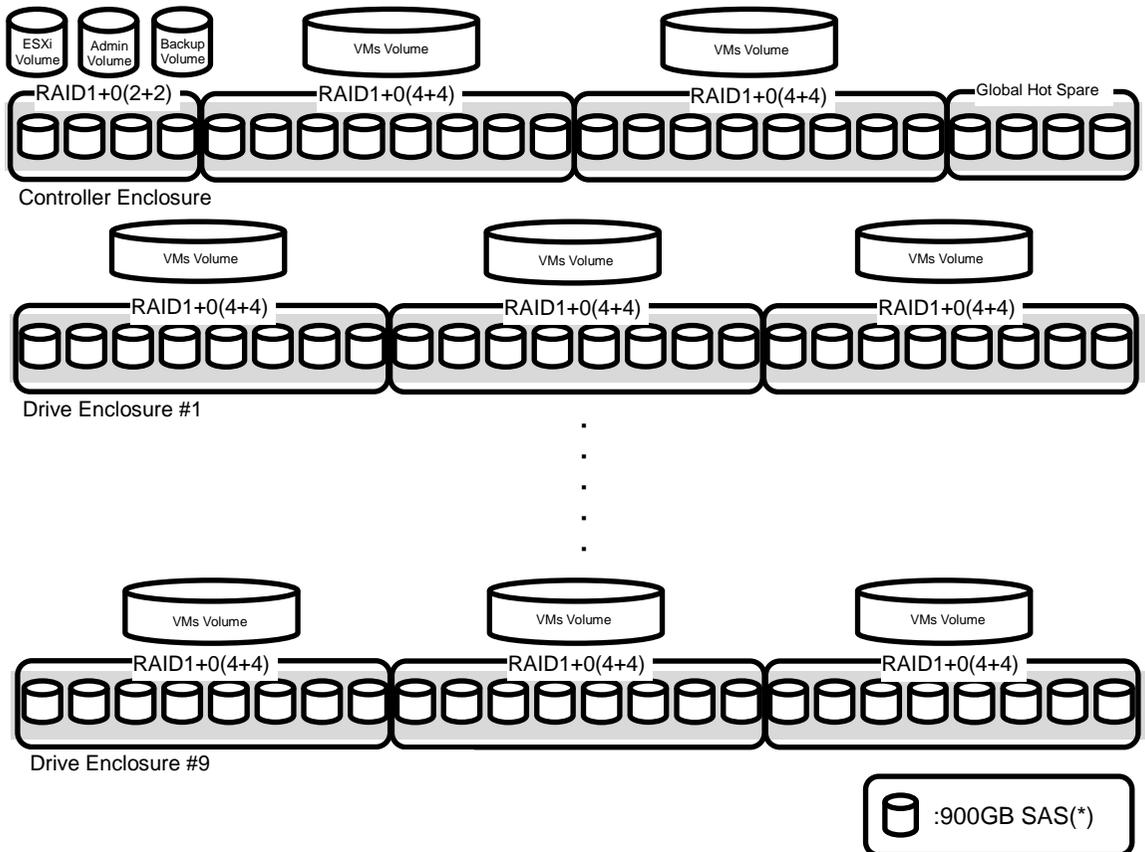
項目	内容
ストレージ	<ul style="list-style-type: none">- 電源ユニットの搭載- HDD の搭載- 電源ケーブル/ FC ケーブル/ SAS ケーブル結線- 基本設定(IP アドレス、パスワード設定など)- 監視設定- RAID グループ作成- ホットスペア登録- パス経路設定

P.15 「1.5 ストレージ構成」を以下の文章に読み替えてください。

誤: 管理系 RAID グループ(LUNR)は、管理系 High Performance TPP(シン・プロビジョニングプール)に登録し、各業務サーバESXiのブート領域(ESXiあたり10GB TPV)、管理用仮想マシンの格納領域(400GB TPV)、バックアップデータ格納領域(800GB TPV)で構成されます。業務系 RAID グループ(LUNR)は、業務系 TPP(RAID 1+0 構成時は High Performance、RAID 6 構成時は High Reliability)にすべて登録し、業務用仮想マシンの格納領域(3.2TB TPV)を LUNR の個数分作成されます。

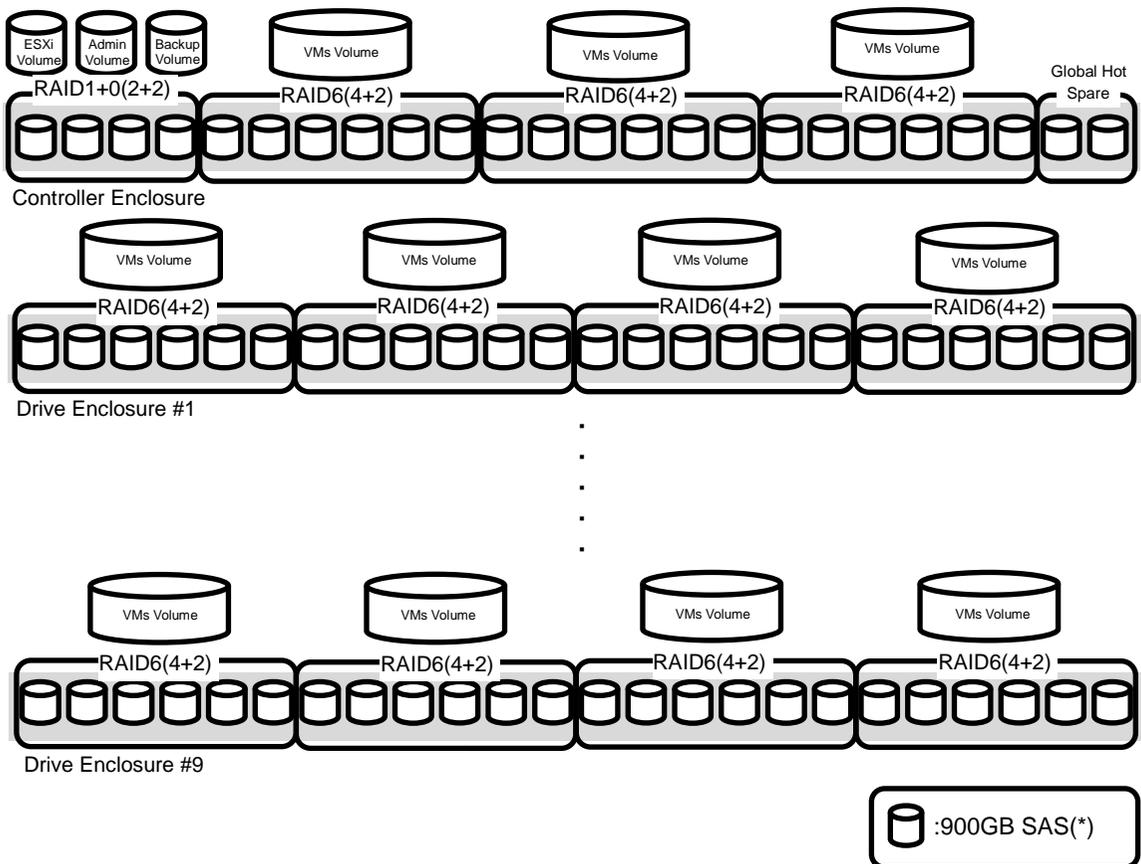
正: 管理系 RAID グループ(LUNR)は、各業務サーバESXiのブート領域(10GBの論理ボリュームを最大のESXi台数分作成)、管理用仮想マシンのブート領域(400GBの論理ボリューム)、バックアップデータ格納領域(800GBの論理ボリューム)で構成されます。業務系 RAID グループ(LUNR)は、業務用仮想マシンの格納領域(3.2TBの論理ボリューム)が LUNR の個数分作成されます。すべての論理ボリュームは、Standard(Open)ボリューム形式で作成されます。

P.16 「RAID1+0 選択時のストレージ構成」の図を以下の図に読み替えてください。



*: 900GB SAS ディスクドライブのユーザー領域は、839,168MB で計算する(1MB=約 1,024,000Byte)

P.17 「RAID6 選択時のストレージ構成」の図を以下の図に読み替えてください。



*: 900GB SAS ディスクドライブのユーザー領域は、839,168MB で計算する(1MB=約 1,024,000Byte)

P.17 「RAID 6 選択時のストレージ構成」

誤:また、管理用仮想マシンの仮想ボリュームは「Thin」で構成し、業務用仮想マシン(VM テンプレート)は「zeroedthick」で構成します。

正:また、管理用仮想マシンの仮想ボリュームは「Standard ボリューム」で構成します。

「2.3.4 業務サーバの停止」の訂正事項について

業務サーバを停止するには手順 5~6 の間に以下の作業を追加して作業をしてください。

[クラスタ フェイルオーバーの警告]のダイアログが表示された場合には「はい」を選択して下さい。

「2.3.7 管理サーバの停止」の訂正事項について

管理サーバを停止するには手順 5~6 の間に以下の作業を追加して作業をしてください。

[クラスタ フェイルオーバーの警告]のダイアログが表示された場合には「はい」を選択して下さい。

「2.3.8 PRIMERGY BX900 S2 シャーシの停止」の訂正事項について

下図のブレードシャーシの管理画面にて枠内 a から d までの項目に関する上記マニュアル内の記載について以下のように読み替えてください。

The screenshot shows the ServerView interface for a BX900 S2 blade chassis. The main content area is titled '電源管理' (Power Management). Under the '電源スイッチ' (Power Switch) tab, there are three sections: 'システム電源状態の現在値' (Current System Power Status), '電力スイッチ設定' (Power Switch Settings), and 'サーバブレードの電源管理' (Server Blade Power Management). The 'システム電源状態の現在値' section contains a dropdown menu for '状態の現在値' (Current Status) and radio buttons for '新しい状態' (New Status), '強制電源切断' (Force Power Off), '電源投入' (Power On), and 'シャットダウンおよび電源切断' (Shutdown and Power Off). The '電力スイッチ設定' section includes a dropdown for 'インベントリ収集方法の指定' (Inventory Collection Method Specification) and checkboxes for 'すべてのサーバブレードが30分以上オンの場合にシステムユニットの電源を切断' (Cut off system unit power when all server blades are on for 30 minutes or more) and '最後のサーバブレード停止後システムユニットの電源を切断' (Cut off system unit power after the last server blade stops). The 'サーバブレードの電源管理' section has a dropdown for '全サーバブレード電源投入/切断' (All server blade power on/off).

- a. 誤: [制御]タブ
正: [電源スイッチ]タブ
- b. 誤: [ブレードシステムの電源状態]
正: [システム電源状態の現在値]
- c. 誤: [ブレードシステムの電源状態]
正: [状態の現在値]
- d. 誤: [ブレードシステムの電源制御]
正: [新しい状態]

「7.1 警告・異常時の対処」の「表 7.1 Cloud Ready Blocks Enterprise を構成する製品のマニュアル」については以下の表と読み替えてください。

機器名	マニュアル名
シャーシ	PRIMERGY BX900 S2 システムユニット オペレーティングマニュアル
	PRIMERGY BX900 S2 システムユニット アップグレード&メンテナンスマニュアル
ブレードサーバ	PRIMERGY BX924 S4 サーバブレード オペレーティングマニュアル
	PRIMERGY BX924 S4 サーバブレード アップグレード&メンテナンスマニュアル
ラックサーバ	PRIMERGY RX200 S8 サーバ オペレーティングマニュアル
	PRIMERGY RX200 S8 サーバ アップグレード&メンテナンスマニュアル
コンバージドファブリックスイッチブレード	PRIMERGY コンバージドファブリックスイッチブレード(10 Gbps 18/8+2)ユーザーズガイド
コンバージドファブリックスイッチ	PRIMERGY コンバージドファブリックスイッチブレード(10 Gbps 18/8+2)コンバージドファブリックスイッチ(CFX2000R/F)コンバージドファブリック機能説明書
ファイバーチャネルスイッチブレード	ファイバーチャネルスイッチブレード(8 Gbps 18/8)取扱説明書
ストレージ	FUJITSU Storage ETERNUS DX S3 ディスクストレージシステム 構築ガイド(Web GUI 編) ETERNUS Web GUI ユーザーズガイド(運用編)

「7.3 保守の種類と影響範囲 ー表 7.3 各コンポーネント保守区分」については以下の表と読み替えてください。

コンポーネント名	部品名	保守区分
PRIMERGY BX900 S2	マネージメントブレード	活性保守
	ホットプラグ電源ユニット	
	ホットプラグファン	
	コンバージドファブリックスイッチブレード(10 Gbps 18/8+2)	
	コンバージドファブリックスイッチ	
	ファイバーチャネルスイッチブレード(8 Gbps 18/8)	
	上記以外の部品	システム停止を伴う保守(*)
PRIMERGY RX200 S8	ハードディスクドライブ	活性保守
	ホットプラグ電源ユニット	サーバの再起動を伴う保守
	上記以外の部品	
PRIMERGY BX924 S4	全ての部品	サーバの再起動を伴う保守(*)
ETERNUS DX100 S3 ETERNUS DX200 S3	ハードディスクドライブ	活性保守
	コントローラーモジュール	
	チャネルアダプター	
	PSU	
	上記以外の部品	システム停止を伴う保守

「7.3.2 サーバの再起動を伴う活性保守 ー 該当サーバの vSphereHA への組込み ー POINT」
「保管管理サーバ」を「保守管理サーバ」に読み替えてください。

「7.4.3 コンバージドファブリックスイッチ／コンバージドファブリックスイッチブレード ■部品交換前の作業、■部品交換後の作業」については、以下の手順に読み替えて実行してください。
※手順については後述されている「vSphere Client による業務サーバの対象 Ethernet ポート無効化／有効化手順」を参照してください。

■ 部品交換前の作業

コンバージドファブリックスイッチブレード(CB1)を交換するには
 管理サーバの CNA カードのポート 0 と業務サーバのオンボード CNA のポート 0 を無効化してください。

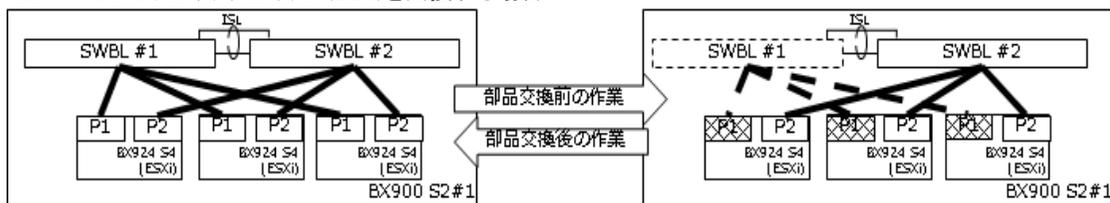
コンバージドファブリックスイッチブレード(CB2)を交換するには
 管理サーバの CNA カードのポート 1 と業務サーバのオンボード CNA のポート 1 を無効化してください。

■ 部品交換後の作業

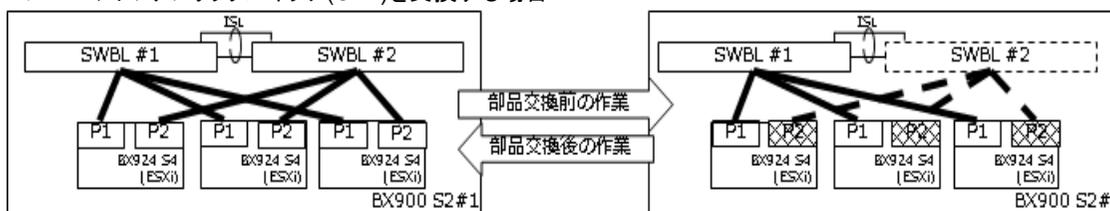
コンバージドファブリックスイッチブレード(CB1)を交換するには
 管理サーバの CNA カードのポート 0 と業務サーバのオンボード CNA のポート 0 を有効化してください。

コンバージドファブリックスイッチブレード(CB2)を交換するには
 管理サーバの CNA カードのポート 1 と業務サーバのオンボード CNA のポート 1 を有効化してください。

• コンバージドファブリックスイッチ(CB1)を交換する場合



• コンバージドファブリックスイッチ(CB2)を交換する場合



• vSphere Client による業務サーバの対象 Ethernet ポート無効化／有効化手順

1. 業務サーバの iRMC の IP アドレスをブラウザから開きます。参照先: [環境設定書_業務サーバ(BIOS・iRMC)] - [BX924S4_#n] - [2.iRMC 設定情報]-[iRMC アドレス設定]

*: #n は対象管理サーバ番号

2. iRMC の管理画面が表示されたら [ログイン] ボタンをクリックします。

3. 左側ツリーから [システム情報] - [ネットワーク一覧] を選択します。

4. [イーサネットポート] メニューから [PortID #n] の [MAC アドレス] を確認します。

*: #n は対象ポート番号

5. iRMC の管理画面を閉じます。

6. vSphere Client から仮想化管理 VM にログインします。

ユーザー名: Administrator

パスワード: [環境設定書_Enterprise モデル_仮想化管理 VM] - [OS 基本情報] - [システムのプロパティ] - [設定] - [Administrator アカウント] - [パスワード]

7. vCenter Server 管理の [警告] 画面が表示された場合、[OK] をクリックします。

8. [表示] - [インベントリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。

9. 左側ツリーから業務サーバ#n を選択し、[構成]タブを選択します。

*: #n は対象業務サーバ番号

10. [ハードウェアメニュー]から[ネットワークアダプタ]を選択します。

11. ネットワークアダプタのメニューから先ほど確認した [MAC アドレス] を使用しているアダプタ名を確認します。

12. [ハードウェアメニュー]から[ネットワーク]を選択します。

13. [vSwitch0]のプロパティをクリックします。

14. [vSwitch]を選択し、[編集]をクリックします。

15. [NIC チューニング]のタブを選択し、先ほど確認したアダプタ名を選択します。

16. 無効化する場合は[下へ移動]をクリックし[未使用アダプタ]に移動し、有効化する場合は[上へ移動]をクリックし、[有効なアダプタ]に移動します。
17. [OK]を選択します。
18. 全ての業務サーバに対して、手順 1～手順 17 までを繰り返します。
19. シリアル番号または MAC アドレスが変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。
『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version 1.10 ユーザーマニュアル(ファシリティ管理機能編)』の[5.1 Facility Manager]を参照し、ラック搭載機器のプロパティ項目を変更します。

「7.4.4 ファイバーチャネルスイッチブレード ■部品交換前の作業」について、以下の手順に読み替えて実行してください。

- 部品交換前の作業
交換前の作業は必要ありません

「7.4.5 サーバブレードとラックサーバおよびサーバブレードに搭載された部品」の「■部品交換後の作業」を以下に読み替えてください。

1. 部品交換前に ID ランプを点灯させた場合は、ID ランプを消灯します。
2. 交換部品に応じて、作業を実施します。
3. サーバブレードのシステムボードを交換した場合、ServerView Infrastructure Manager サーバのプロファイル再適用が必要です。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version 1.10 ユーザーマニュアル(プロファイル管理機能編)』の[4.9 サーバ保守後操作]を参照してサーバのプロファイル再適用を実施してください。
4. シリアル番号等が変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。
『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version 1.10 ユーザーマニュアル(ファシリティ管理機能編)』の[5.1 Facility Manager]を参照し、ラック搭載機器のプロパティ項目を変更します。
5. 交換を終了したサーバブレード／管理サーバを起動します。
起動方法は「■ 該当サーバの起動」を参照してください。
6. 「■ 該当サーバの vSphereHA への組み込み」に従って、保守作業の終了したサーバを vSphereHA へ組み込みます。

「7.4.6 シャーシ」の「■部品交換後の作業」の末尾に以下を追記いたします。

また、MAC アドレスが変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。
『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version 1.10 ユーザーマニュアル(ファシリティ管理機能編)』の[5.1 Facility Manager]を参照し、ラック搭載機器のプロパティ項目を変更します。

「7.4.7 ストレージ - (2) コントローラーモジュール(CM)／チャネルアダプター(CA)の交換 - ■部品交換前の作業、■部品交換後の作業」については以下の手順に読み替えて実行してください。

- 部品交換前の作業
【CM0 または CM0 に搭載された部品を交換する場合】
 - ①「(4) vSphere Client による管理サーバの対象 FC ポート無効化／有効化手順」を参照し、全ての管理サーバに搭載された FC カードのポート 0 を無効化してください。
 - ②「vSphere Client による業務サーバの対象 FC ポート無効化／有効化手順」を参照し、全ての業務サーバに搭載された FC カードのポート 0 を無効化してください。
- 【CM1 または CM1 に搭載された部品を交換する場合】
 - ①「(4) vSphere Client による管理サーバの対象 FC ポート無効化／有効化手順」を参照し、管理サーバに搭載された FC カードのポート 1 を無効化してください。
 - ②「vSphere Client による業務サーバの対象 FC ポート無効化／有効化手順」を参照し、全ての業務サーバに搭載された FC カードのポート 1 を無効化してください。

■ 部品交換後の作業

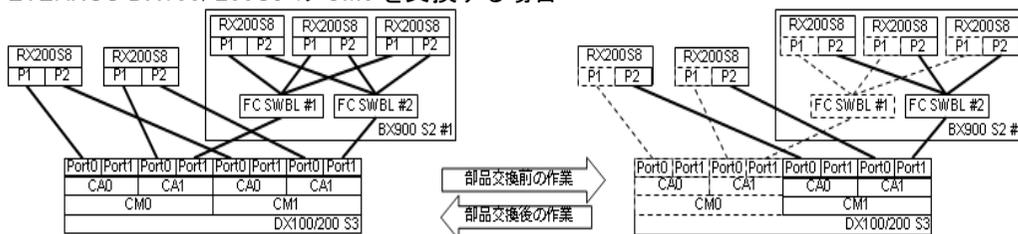
- 【CM0 または CM0 に搭載された部品を交換した場合】

- ①「(4) vSphere Client による管理サーバの対象 FC ポート無効化／有効化手順」を参照し、全ての管理サーバに搭載された FC カードのポート 0 を有効化してください。
- ②「vSphere Client による業務サーバの対象 FC ポート無効化／有効化手順」を参照し、全ての業務サーバに搭載された FC カードのポート 0 を有効化してください。

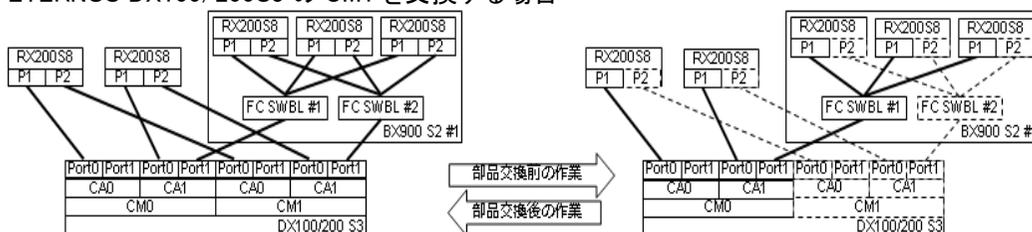
- 【CM1 または CM1 に搭載された部品を交換した場合】

- ①「(4) vSphere Client による管理サーバの対象 FC ポート無効化／有効化手順」を参照し、管理サーバに搭載された FC カードのポート 1 を有効化してください。
- ②「vSphere Client による業務サーバの対象 FC ポート無効化／有効化手順」を参照し、全ての業務サーバに搭載された FC カードのポート 1 を有効化してください。

• ETERNUS DX100/200S3 の CM0 を交換する場合



• ETERNUS DX100/200S3 の CM1 を交換する場合



• vSphere Client による業務サーバの対象 FC ポート無効化／有効化手順

1. 業務サーバの iRMC の IP アドレスをブラウザから開きます。

参照先:[環境設定書_業務サーバ(BIOS・iRMC)] - [BX924S4_#n] - [2.iRMC 設定情報]-[iRMC アドレス設定]

*: #n は対象管理サーバ番号

2. iRMC の管理画面が表示されたら [ログイン] ボタンをクリックします。

3. 左側ツリーから [システム情報] - [ネットワーク一覧] を選択します。

4. [ファイバーチャネルポート] メニューから [PortID #n] の [WWNN] と [WWPN] を確認します。

*: #n は対象ポート番号

5. iRMC の管理画面を閉じます。

6. vSphere Client から仮想化管理 VM にログインします。

ユーザー名: Administrator

パスワード:[環境設定書_Enterprise モデル_仮想化管理 VM] - [OS 基本情報] - [システムのプロパティ] - [設定] - [Administrator アカウント] - [パスワード]

7. vCenter Server 管理の [警告] 画面が表示された場合、[OK] をクリックします。

8. [表示] - [インベントリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択します。

9. 左側ツリーから業務サーバ#n を選択し、[構成]タブを選択します

10. [ハードウェアメニュー]から[ストレージアダプタ]を選択します

11. ストレージアダプタのメニューから先ほど確認した [WWNN] と [WWPN] を使用しているアダプタを選択します。

12. [詳細] メニューから [表示] を [デバイス] から [パス] に切り替えます。

13. 無効化する場合は表示されているすべてのランタイム名を右クリックし、表示されメニューで [無効化] を選択します。有効化する場合は [有効化] を選択します。

14. ランタイムのステータスが [無効] または [有効] になったことを確認します。

15. vSphere Client を閉じます。

16. 全ての業務サーバに対して、手順 1～手順 15 までを繰り返します。

・
「7.4.7 ストレージ –(3) システム停止を伴うストレージ保守」については「シャーシ」という表現がありませんが、「コントローラエンクロージャ/ドライブエンクロージャ」に置き換えて実行してください。

「7.4.7 ストレージ–(4) vSphere Client による管理サーバの対象 FC ポート無効化/有効化手順」について、「8. [表示] – [インベントリ] – [インベントリ] を選択します。」を「8. [表示] – [インベントリ] – [ホスト及びクラスタ] を選択します。」に読み替えて実行してください。

「7.5.4 サーバブレードとラックサーバおよびサーバに搭載された部品」について管理サーバ(RX200S8)搭載の FC カードは部品交換後に下記手順が必要になります。

- ① 交換した RX200S8 の iRMC の管理画面にログインしてください。
参照先: [環境設定書. 管理サーバ_ESXi ホスト] – [管理サーバ ESXi_#n] – [iRMC 設定情報]
*: #n は対象管理サーバ番号
- ② 左側ツリーから[システム情報]を展開し、[ネットワーク一覧]を選択します
- ③ [ファイバーチャネルポート]から[ポート Id]と[World Wide Port Name(WWPN)]を記録します
- ④ ETERNUS Web GUI にログインしてください。
※ログイン方法については、「バックアップ・リストア、サーバ増設ガイド — 5.3 認識ボリュームの制限解除」を参考に行ってください。
- ⑤ 「接続性」タブを選択し、左側ツリーから「接続性」-「ホストグループ」-「FC/FCoE」を展開してください。
- ⑥ 対象ポートの左側にチェックを入れ、右側ツリーから「FC/FCoE ホスト変更」を選択してください。
- ⑦ WWN の欄に先ほど記録した[World Wide Port Name(WWPN)]を入力します。
- ⑧ 「FC/FCoE ホスト変更」の確認画面が表示されるので[OK]を選択してください。
- ⑨ 「FC/FCoE ホスト変更結果」の確認画面が表示されるので、[完了]を選択してください。
- ⑩ FC カードには2つポートが配置されていますので、残りのポートも同じように⑥～⑨までを繰り返し設定を変更してください。

「7.9.2 Cloud Ready Blocks 構成定義ファイルの変更–POINT」に「複合化されたファイル」という表現がありますが「暗号化されていない状態のファイル」と読み替えてください。

「7.9.2 Cloud Ready Blocks 構成定義ファイルの変更」の表 7.10 の重要

誤:重要

- Ent VM 版の場合、ネットワーク装置は、[IDENTIFICATION] : LAN_SW_AGT#1 のみ設定してください。
- C1_LAN_SWB#1、C1_LAN_SWB#2、C2_LAN_SWB#1、C2_LAN_SWB#2、LAN_SW_AGT#2 は、該当するハードウェアが存在していても設定する必要はありません。これらには、「None」を設定してください。

正:重要

- 採取対象のハードウェアおよびソフトウェアと IDENTIFICATION の対応関係を以下に示します。

対象	コンポーネント		収集内容	IDENTIFY	
PRIMERGY BX900 S2 /ブレード	マネジメントブレード		ハードウェアログ (MMB、サーバーブレードの 両方)	CHASSIS#●	
	サーバーブレード(BX924 S4)/ESXi		— ※1	Cx SERVER#●	
	ファイバチャネル/コンバインドファブリックスイッチブレード 本体/ESXi		ハードウェアログ — ※2	Cx FC SWB#●	
PRIMERGY RX200 S8	VM	仮想サーバー	仮想サーバー	— ※3	SERVER#●
			Microsoft Windows Server 2012	OSログ	VM_INFRMGR
			ServerView Operations Manager for Windows	アプリケーションログ	
			ServerView Infrastructure Manage	アプリケーションログ	
			ServerView Fabric Manager	アプリケーションログ	
			ServerView Virtual-IO Manager	アプリケーションログ	
			ETERNUS SF Storage Cruiser	アプリケーションログ	
			ServerView Resource Orchestrator Express または ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition	アプリケーションログ	
			TRIOLE クラウドミドルセットAセット または TRIOLE クラウドミドルセットBセット	アプリケーションログ	
			仮想化管理VM	Microsoft Windows Server 2012	
Microsoft SQL Server 2012 Standard	アプリケーションログ				
CFX2000R	本体		ハードウェアログ	LAN_SW_AGT#●	
SANディスクアレイ (ETERNUS DX100 S3 /DX200 S3)	本体		ハードウェアログ	STORAGE	

●：同一ハードウェア／仮想マシンが複数ある場合の数量（番号）

※1 ハードウェアログについてはマネジメントブレードで採取されるログに含まれます。ハイパーバイザのログについては対象外です。

※2 ハードウェアログおよびハイパーバイザのログについては対象外です。

※3 仮想サーバについてはハードウェアログは採取の対象外です。

－ Ent VM 版の場合、ネットワーク装置は、[IDENTIFICATION] : LAN_SW_AGT#1 のみ設定してください。

－ C1_LAN_SWB#1、C1_LAN_SWB#2、C2_LAN_SWB#1、C2_LAN_SWB#2、LAN_SW_AGT#2 は、該当するハードウェアが存在していても設定する必要はありません。これらには、「None」を設定してください。

「7.9.4 保守情報の収集」の4項

誤：－ “201002:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> process abnormal end.
process=VM_VIRTMGR” が出力された場合、プロセス処理中に次のメッセージが出力されますが問題ありません（SQL で関連エラー発生した場合のみ出力されるファイルのため）。

正：－ “201002:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> process abnormal end.
process=VM_VIRTMGR” および、201001:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> command
abnormal end. が出力された場合、プロセス処理中に次のメッセージが出力されますが問題ありません（SQL で関連エラー発生した場合のみ出力されるファイルのため）。

誤: - "201002:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> process abnormal end.
process=VM_INFRMGR"が出力された場合、プロセス処理中に次のメッセージが出力されますが問題ありません(ESXiの監視対象が保存されている場合のみ出力されるファイルのため)。

正: "201002:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> process abnormal end. process=VM_INFRMGR"および、
201001:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> command abnormal end.が出力された場合、プロセス処理中に次のメッセージが出力されますが問題ありません(ESXiの監視対象が保存されている場合のみ出力されるファイルのため)。

「7.9.4 保守情報の収集」の5項

誤:・異常終了

```
201001:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> command abnormal end.  
続行するには何かキーを押してください ...[Enter]
```

保守情報収集ツールに停止するような問題が発生した場合、「7.9.3 収集対象定義ファイルの変更」で採取が不可能な対象を外したうえで、再度ツールを実行します。

正:・異常終了

```
201001:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> command abnormal end.  
続行するには何かキーを押してください ...[Enter]
```

保守情報収集ツールに停止するような問題が発生した場合、「7.9.3 収集対象定義ファイルの変更」で採取が不可能な対象を外したうえで、再度ツールを実行します。

ただし、以下の場合には問題ありません。

4項の 201002:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> process abnormal end.
process=VM_VIRTMGR"が出力された場合。

4項の "201002:WARNING:<Cloud Ready Blocks_snap> process abnormal end.
process=VM_INFRMGR"が出力された場合。

保守情報収集ツールの起動中に途中で停止する場合は「Ctrl+c」を入力してください。

4. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model (VMware ブレードサーバタイプ) バックアップ・リストア、サーバ増設ガイド」に関する訂正事項

「3.2. 仮想化管理 VM のリストア」の手順 27 の後に以下記述を追加してください。

28. インフラ管理 VM へログインします。
29. vSphere Client を起動し、VMware vCenter Server (仮想化管理 VM) へログインします。
30. [表示]メニューより、[インベントリ]-[ホストおよびクラスタ]を選択し、[ホストおよびクラスタ]ビューを表示します。
31. ナビゲーションメニューより、[仮想化管理 VM コンピュータ名]-[Datacenter]を選択します。
32. [Management_Cluster]を選択し、右クリックで表示されるメニューから[設定の編集]を選択します。
33. 左のメニュー一覧より[vSphere HA]-[仮想マシンのオプション]を選択します。
34. [仮想マシン設定]から仮想化管理 VM のコンピュータ名を選択し、[仮想マシン再起動の優先順位]の設定を[クラスタ設定の使用]から[高]に変更します。

「第7章 サーバ増設ガイドー重要」に下記注意事項の追加をしてください。

本製品では、サーバ増設を考慮した状態で、設計・設定を実施済みですので、以下の設定はお客様が増設時に新規に作成・設定する必要はありません。

- ・ETERNUS-RAID グループ
- ・ETERNUS-ボリューム
- ・FC スイッチブレード

詳細は「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model (VMware ブレードサーバタイプ) 利用ガイド」の各項目をご参照下さい。「1.5 ストレージ構成」「1.6 ネットワーク構成」「B.3 FC スイッチブレードの設定状態」

「7.2.7. OS プロファイルの適用」の手順 5 の後に以下記述を追加してください。

作業完了後にインフラ管理 VM 上で ServerView Infrastructure Manager Service サービスの再起動を行ってください。サービスの再起動を行わない場合、Facility Manager にて増設したサーバのセンサー情報が取得されません。

サービスの再起動方法は「FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version1.10 ユーザーマニュアル(共通編)」を参照してください。

5. 「FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version1.10 ユーザーマニュアル(共通編)」に関する訂正事項

FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version1.10 ユーザーマニュアル(共通編)について以下の通り読み替え願います。

1.2 章 システム要件

誤:

項目	説明
管理用仮想サーバ	
使用ポート	- 443、427 (TCP、UDP)

正:

項目	説明
管理用仮想サーバ	
使用ポート	- 623 (UDP) : IPMI - 5989 (TCP) または 5988 (TCP) : CIM

2.1 章 ISM の機能

Cloud Ready Blocks Enterprise で利用可能な機能と、その対象となる機器の関係を下記の表で補足いたします。

機能	対象機器					
	業務サーバ BX924 S4	ブレードシャ ーシ・MMB BX900 S2	ストレ ージ ETERNUS	ファブリックスイ ッチ・スイッチブレード CF2000 他	FC スイ ッチブ レード	管理サ ーバ RX200 S8
Facility Manager						
機器登録	○	○	○	○	—	○
ラック画面	○	○	○	○	—	○
FirstSight	○	○	—	—	—	○
Profile Manager						
機器登録	○	○	—	—	—	○
プロパティ・プロフ ァイル参照	○	—	—	—	—	○
プロファイル適 用・変更	○	—	—	—	—	—
Log Collect and Checker						
ログ収集・異常通 報	※1					

「○」=対象 「—」=対象外

※1: ユーザーマニュアル「FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version 1.10 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編)」を参照してください。

6. 「FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version1.10 ユーザーマニュアル(ファシリティ編)」に関する訂正事項

FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version1.10 ユーザーマニュアル(ファシリティ管理機能編)について以下の通り読み替え願います。

2.1.1 章 システム全体

誤: ISM の監視範囲は、Cloud Ready Blocks Enterprise 構成の PRIMERGY BX900 S2 シャーシ、PRIMERGY RX200 S8、ETERNUS DX100/DX200 S2、ネットワークスイッチ (搭載されたハードウェアおよびソフトウェアを含む) です。

正: ISM の監視範囲は、Cloud Ready Blocks Enterprise 構成の PRIMERGY BX900 S2 シャーシ、PRIMERGY RX200 S8、ETERNUS DX100/DX200 S3、ネットワークスイッチ (搭載されたハードウェアおよびソフトウェアを含む) などです。

誤:ISM から Cloud Ready Blocks Enterprise を監視するために、本ソフトウェアがインストールされた管理用仮想マシンから PRIMERGY BX900 S2 に搭載されたマネージメントブレード(以降 MMB と表記)および各サーバブレードと、SNMP サービスおよび WMI で通信できる必要があります。

正:ISM から Cloud Ready Blocks Enterprise を監視するために、本ソフトウェアがインストールされた管理用仮想マシンから PRIMERGY BX900 S2 に搭載されたマネージメントブレード(以降 MMB と表記)などと通信できる必要があります。

3.6.2 章 グループ内機器の新規登録

誤:グループ内機器に登録できるシャーシは1つだけです。[タイプ]で[Chassis]を選択した機器を複数追加することはできません。

正:Cloud Ready Blocks Enterprise 構成において、グループ内機器に登録できるシャーシ数に制限はありません。

4 章 ログ収集機能の設定

表の監視箇所について

誤:MMB,各スイッチブレード(FC,CFB)

正:MMB、FC スwitchブレード、コンバードファブリックスイッチブレード

収集するログについて

誤:SEL,ファイバーチャネル(FC)/コンバードファブリックスイッチブレード(CFB)のログ

正:SEL,ファイバーチャネル/コンバードファブリックスイッチブレード/コンバードファブリックスイッチのログ

4.5 章 異常発生時の対処

・ハードウェアの異常(ファイバーチャネルカード/コンバードネットワークアダプタ/内蔵 LAN/SCSI デバイス)

誤:ログ収集が通報した場合も ServerView Agent と同様の対処を行います。

故障箇所は、Trap または Mail 情報の[通知メッセージ]にあるバス情報(xxxx:xx:xx.x)/デバイス名(vmnicX、vmhba など)から特定します。

正:ログ収集が通報した場合も ServerView Agent と同様の対処を行います。

・管理用仮想マシン上のソフトウェア異常

誤:Trap/Mail 情報の[故障箇所]に表示される内容が、異常が発生しているソフトウェアです。

「5.3.2 [ログ収集]画面」で、ホスト名が「Infra_Manager」の機器から各ソフトウェアのログを収集して対処します。

正:trap/mail 情報の”故障箇所”に異常が発生しているソフトウェアになります。

問い合わせが必要な場合には、ISM のログ収集画面からログをダウンロードして下さい

4.6 章 収集したログ

誤:PRIMERGY BX900 の MMB と CFB/FC スイッチブレード

正:PRIMERGY BX900 の MMB と FC/コンバインドファブリックスイッチブレード

5.3.2 章 [ログ収集]画面

管理用仮想マシン(ISM がインストールされている仮想マシン)上のログ(イベントログ、SVS のログ)はホスト名が”**Infra_Management**”である行からダウンロード出来ます。

7. ServerView Infrastructure Manager に関する補足事項

- (1) FirstSight の利用に関して
本ソフトウェアの起動やサーバ選択時、「更新」ボタン押下時には、数十秒から構成によっては最大約 1 分程度かかる場合があります。
- (2) Log Collect and Checker の利用に関して
定期収集ログは AM1 時に収集され、AM3 時にアーカイブされ ServerView Infrastructure Manager の”ログ収集画面”よりダウンロード可能になります。ただし、ログのサイズにより数秒から数分ダウンロード可能になるまでに時間が必要となります。
- (3) Facility Manager の利用に関して
サーバ増設を行った場合、「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model (VMware ブレードサーバタイプ) バックアップ・リストア、サーバ増設ガイド」における「7.2 プロファイル管理機能による OS インストール」作業完了後にインフラ管理 VM 上で ServerView Infrastructure Manager Service サービスの再起動を行ってください。サービスの再起動を行わない場合、Facility Manager にて増設したサーバのセンサー情報が取得されません。
サービスの再起動方法は「FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version1.10 ユーザーマニュアル(共通編)」を参照してください。

8. ご購入後のハードウェア増設・ソフトウェアインストールについての補足事項

Cloud Ready Blocks Enterprise は、ハードウェア・ソフトウェア共に構築・設定済の状態出荷されます。ご購入後の Cloud Ready Blocks ブレードサーバ追加オプション、シャーシ追加オプション、メモリ追加オプション、バックアップオプション以外でのお客様によるハードウェア増設、及び工場出荷時にインストールされているホスト OS・仮想マシン(管理 VM)上へのソフトウェアインストールには対応しておりません。お客様によりハードウェアの増設、ホスト OS・仮想マシン(管理 VM)上へのソフトウェアのインストールが行われた場合、動作保証対象外となります。

9. 本製品に含まれる BX900 S2 シャーシに搭載されているユニットの搭載位置についての補足事項

本体製品に含まれる BX900 S2 シャーシに搭載されているユニットはすべて工場出荷時の搭載位置のままご使用ください。搭載位置を変更した場合、動作保証対象外となります。

10. プレインストールされた仮想マシンの運用についての補足事項

工場出荷時に作成されている仮想マシンについては、業務に使用することを目的としておらず、本製品を管理するために作成しています。

工場出荷時に作成されている仮想マシンを顧客業務に使用、またはその仮想マシンに割り当てられた CPU やメモリの設定値を変更した場合、動作保証対象外となります。

11. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model (VMware ブレードサーバタイプ) 梱包物一覧」への修正事項について

P.1 「SAS ケーブル 以下の条件により変わります。」の内容を以下の文書に読み替えてください。

誤:

2.5m 2 本(ストレージエンクロージャー追加オプション FISC-SE001 が無い場合)

2.5m 1 本,75cm 1 本(ストレージエンクロージャー追加オプション FISC-SE001 がある場合)

正:

2.5m 1 本(ストレージエンクロージャー追加オプション FISC-SE001 および FISC-SE006 が無い場合)

75cm 1 本(ストレージエンクロージャー追加オプション FISC-SE001 または FISC-SE006 がある場合)

以下の新規オプションを追加してください。

ストレージエンクロージャ追加オプション FISC-SE006

- Cloud Ready Blocks 保証書 1 枚
- はじめにお読みください 1 部
- 安全上の注意 1 部
- HDD/SSD の取り扱いと Log 収集について 1 部

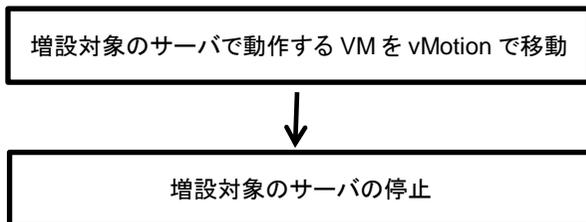
ストレージ HDD 追加オプション FISC-SE007

- Cloud Ready Blocks 保証書 1 枚

12. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks フィールド増設ガイド」に関する補足事項

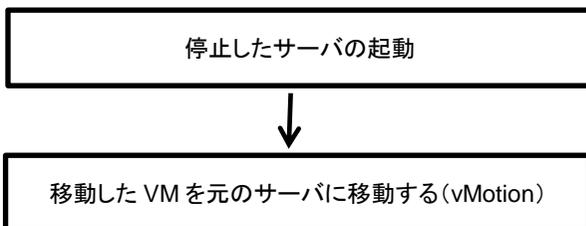
「1.2 サーバのシステムからの切り離し・サーバの停止」に以下の流れ図を追加します。

作業は以下の流れで行います。作業の詳細は『利用ガイド』を参照してください。



「1.4 サーバの起動・サーバのシステムへの組込み」に以下の流れ図を追加します。

作業は以下の流れで行います。作業の詳細は『利用ガイド』を参照してください。



以上